

丁月二十日

一層特後雨

行功 六七時池内見習士官八隊四小隊、半八隊、口ハレ
又ハ出發シテ一號道、
梁頭寮シテハ先行入

二、八時部隊ハ口デリテ輸送計畫ニ基キ、口ハレ又出
發、十時四十分口サリテ到リ着ク

三、到着ト六、大水主對中尉、松本見習士官、伴七郎
隊、高橋ノタノ同町役場及警察、トテ考シ學校ヲ

宿舎ニ決定シテ一休ヲ請準備ヲ行フ

四、七時宿舎命令ヲ下達ス
五、七時、口ハレノテ、校地、警察、學校、其他主要關係者ノ
集合ヲ求メ、部隊駐留ノ真意ヲ對及在民ノ高
興シ部隊長、其ハ大艦ヲ指示シ藤村中尉、

13693

1741

說明ヲ行ハシ住民ノ兵匪通謀逃避防止並ニ生野ノ
安堵ニ資ス

六 村中曹長ハ第三次輸送車輛ヲ指揮シ十六時口

カリオニ到着ス又之ニヨリ部隊ヲ移動集結ヲ了ス

七 十六時三十分ニ於テ偵察ニ向ヒタル第一小隊ノ自

動偵察ニ期シサリオニ到着ス死傷者散容シ

テリ同率領長山崎伍長ノ報告ニヨリ第二小隊

ハ偵察ノ歸途ニマヤノ三南方約三村附近ニ敵襲

ヲシテ偵察ニ同行シタル歩兵隊戸川少尉數死シ

敵隊ハ自動偵察車元前率輪ニ命守岩石ニ激突

シ死傷者多シタルモニシテ自動偵察車ニ向テ

中ヨリ同自動偵察車ハ派シテ二十時三十分ニ至リ

八 山崎伍長ノ報告ニ依リ即刻夏六隊命甲第三五

號其ノ下達ス依テ村中曹長ハ自動偵察車

64

二輛ヲ以テ... 兵トシテ... 發ス

右自動偵察車... フ受ケタルヲ以テ...

現地ニ至ル

九村村曹長ハ池内見習士官以下...

又激突自動偵察車ハ最早使用不可能ニ...

十池内見習士官ハ負傷シ...

偵察車ニ敵襲ニ伴フ自動偵察事項ニ関シ隊長

ニ報告ス(要圖別紙)

右報告ニ基キテ... 入

13693

1743

其二三増渡りタル員強首ノ入曉及糧秣補給ノタス判
送ニ関シ夏六休命ノ甲第ニハ五號其ノ下道ス

命令 夏六休命甲第ニハ五號

掘地部隊命令 四月三日

- 一 部隊ノ當分ヨリガリオニ備蓄セントス
- 二 本町ノ各隊ハ別紙既宿區分ニ依リ貯蓄スベシ
- 三 警戒及勤務ハ左記ニ依リ實施スベシ

左記

週番勤務將校

水村晃 習士官

週番 下士官

河野 兵

部隊 下士官

第四小隊

週番將校ハ巡察將校ヲ兼ス

四日課時限如故

五 給養、部隊携行糧秣ニ依ルベシ
細部ハ大本立計中尉ヲシテ指示セム
六 予、現在地ニ在リ

部隊長 堀地少佐
下達志 命令受領者ヲ集メ口達ス

夏六休命用第三八五號其ノ一

堀地部隊命令 十月十七日 堀地少佐

一 本朝十二號道破壊橋梁ノ偵察ニ向ヒタル
第四小隊、其ノ歸途ニテ、南方ニ新附
道ニ於テ敵襲ヲ受ケ偵察ニ勘カシタル赤兵
隊ト共ニ十數名ノ死傷者ヲ出シアリ
一 部隊ハ即刻之カ收容及入院患者ノ輸送ヲ
實施ス

三 第四小隊長ハ直ニ自隊配属ノ自動偵察車
一輛ヲ以テ重傷入院患者ヲ收容シ四ノ十ノ
ニ輸送スベシ

四 村竹曹長ハ即刻自動偵察車二輛ヲ以テ
ノ三南方ニ至リ同地点ニアル第四小隊長ノ
ヲ收容シ事故自動偵察車ノ處理ヲ行フベシ
警戒ノ多ク第四小隊長約一分隊ヲ属ス

五 木村見習士官ハ現在指揮シアル第四小隊長ノ
約一分隊ヲ直ニ村竹曹長ノ指揮ニ入ラシムベ
シ

六 予ハ現在地ニ下リ

部隊長 堀地少佐

下達後 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシメ第四小隊長

三村小隊長ヲシテ傳達セム

夏六休命申第ニ八五號其ノ二

堀地部隊命令

十月十七日

一 器枝小隊長ハ明十八日ハ時自動領車四輛ヲ
 松本經理部見習士官ノ指揮ニ入ルシメ糶林受
 領及入院患者護送ノタメトマニラレ及サンラエレ
 ナンドレニ至ラシメ之ヲ輸送ニ往セシムベシ
 其ノ警戒ハ自隊ニ於テ實施スベレ
 二 予ハ現在地ニ在リ
 部隊長 堀地少佐
 下達法 命令受領者ヲ集メ口達ス

堀地部隊白日命令

十月十七日

陸軍經理部見習士官 松本 勇
 陸軍軍曹 山形忠夫

1747

糧秣受領及酒米品購入ノタメニ泊三日ノ豫定ヲ
以テ「ヤニラ」及「サンフェルヤント」ニ出張ヲ命ズ

陸軍衛生軍醫

松井 範 政

六院患者護送及部隊六院患者狀況調査ノタメ

ニ泊三日ノ豫定ヲ以テ「サンフェルヤント」ニ出張ヲ

命ズ

陸軍兵技部長

冠野 正 徳

陸軍上等兵

上田 喜 代

同 一等兵

安宗 唯 雄

「クルラク」部隊備物集積所勤務ヲ命ズ

陸軍兵技部長

永岡 忠 博

陸軍上等兵

山西 逸 夫

同 一等兵

磯野 正 男

「タルラク」部隊備物集積所勤務ヲ命ズ

五

陸軍軍曹

同 兵長

同 上等兵

同 一等兵

同

同

同

入院ヲ命ズ

電報

電

報

發信十月十七日午時五分

工兵隊ハ

高級參謀宛

一 工兵隊主力(系小穴)ハ十月十六時「ワザリ」ニ集結ス
二 本朝先發隊ハ「キヤン」三「キヤン」四「瀨ノ橋」ニ

岡村 繁幸

堀原 雄資

原 政明

耳下 義雄

兵 森 秀次

中澤 種吉

吉本 定雄

破壊ノ状況ヲ復察シタル結果、橋ノ破壊セラ
 レタルモノ三箇所トシテ、補修ニ、特殊ノ技術ト
 修理器ヲ用テ、要シ完成ハ、數十日ヲ要スハレ
 三、該地附近ニ於テ敵襲ヲ受ケ、自動車破壊
 死傷者ヲ出シ、一時歸ル
 四、詳細ハ別ニ報告ス

復察

復察地

一、ヤンブ三、ヤンブ四、間破壊橋梁復察並、團別表

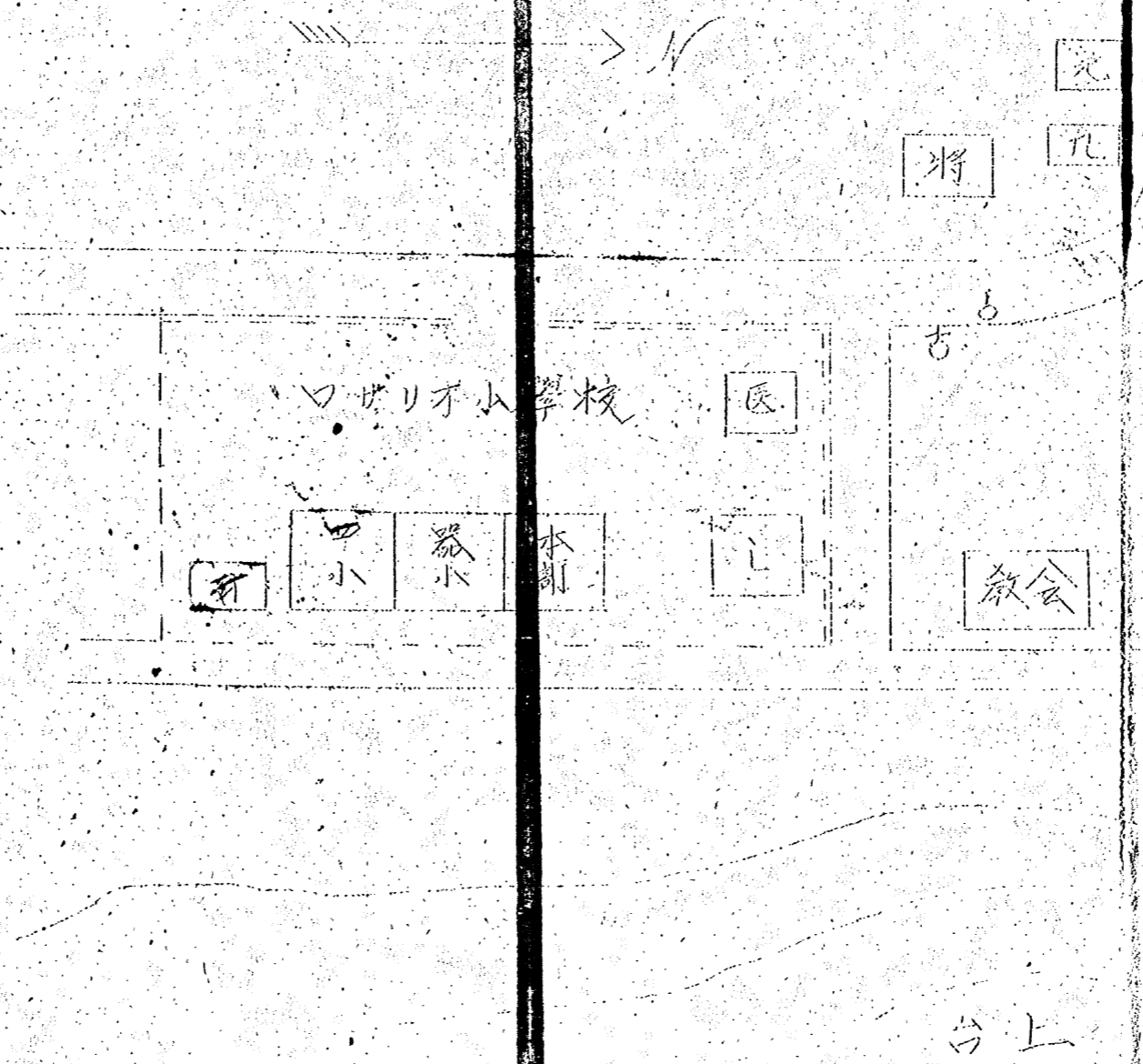
區分	派遣人員	復察地	現員	橋梁	復察地
第一隊	二	ヤンブ三	二	橋梁	復察地
第二隊	二	ヤンブ四	二	橋梁	復察地
第三隊	二	間	二	橋梁	復察地
第四隊	二	ヤンブ三	二	橋梁	復察地
第五隊	二	ヤンブ四	二	橋梁	復察地
第六隊	二	間	二	橋梁	復察地
第七隊	二	ヤンブ三	二	橋梁	復察地
第八隊	二	ヤンブ四	二	橋梁	復察地
第九隊	二	間	二	橋梁	復察地
第十隊	二	ヤンブ三	二	橋梁	復察地
第十一隊	二	ヤンブ四	二	橋梁	復察地
第十二隊	二	間	二	橋梁	復察地
第十三隊	二	ヤンブ三	二	橋梁	復察地
第十四隊	二	ヤンブ四	二	橋梁	復察地
第十五隊	二	間	二	橋梁	復察地

北府區分及警戒之圖

夏六作命甲第三八五號別紙

至夕毛ル

檢問所

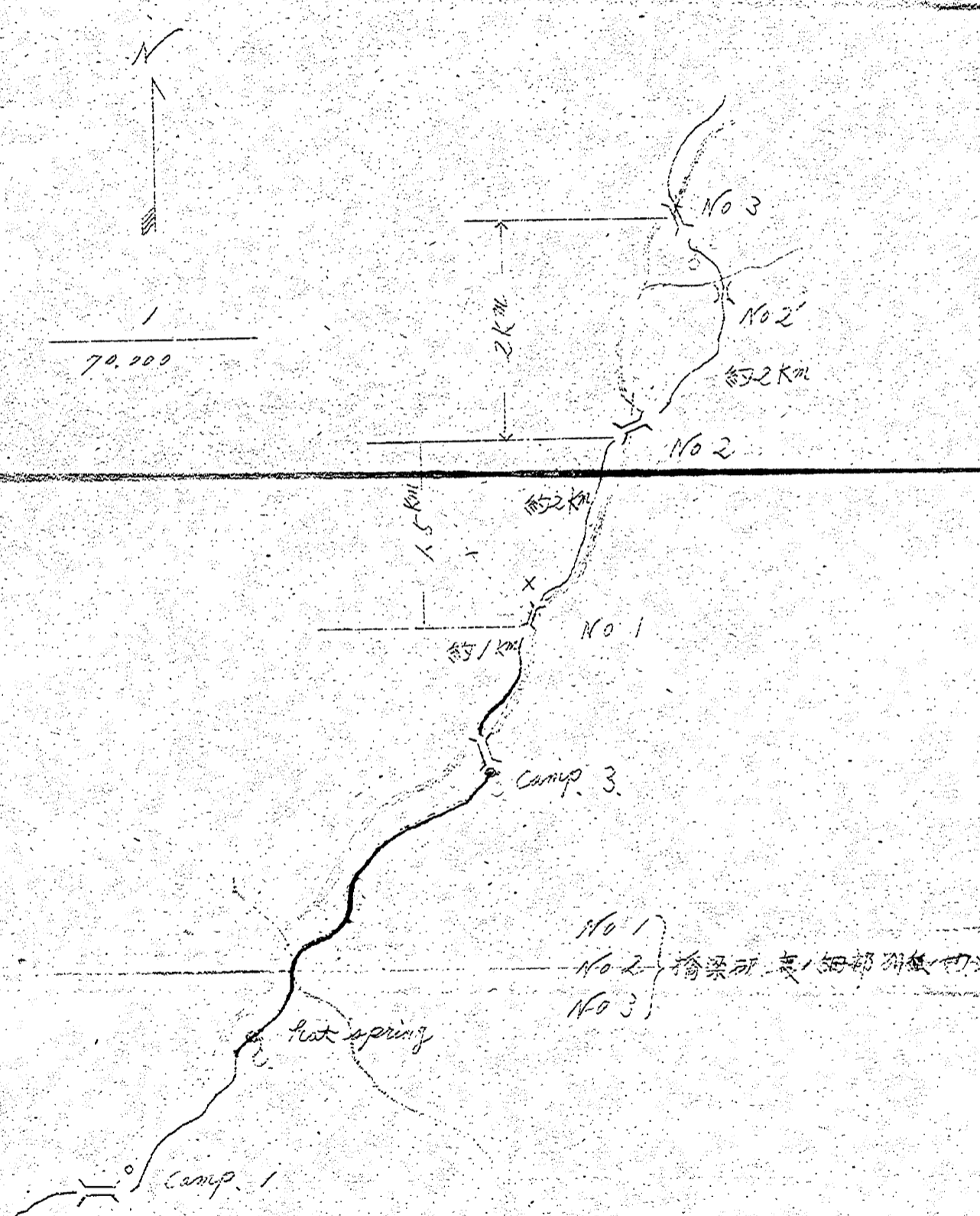


警戒要領

- 一 衛兵司令ハ適時東北台上ニ至ラシメ該地附近ヲ警戒ス
- 二 夜間ハ小隊ヨリ別途歩哨ヲ出シ宿舎附近ヲ警戒ス之ヲ指揮ハ衛兵司令トス

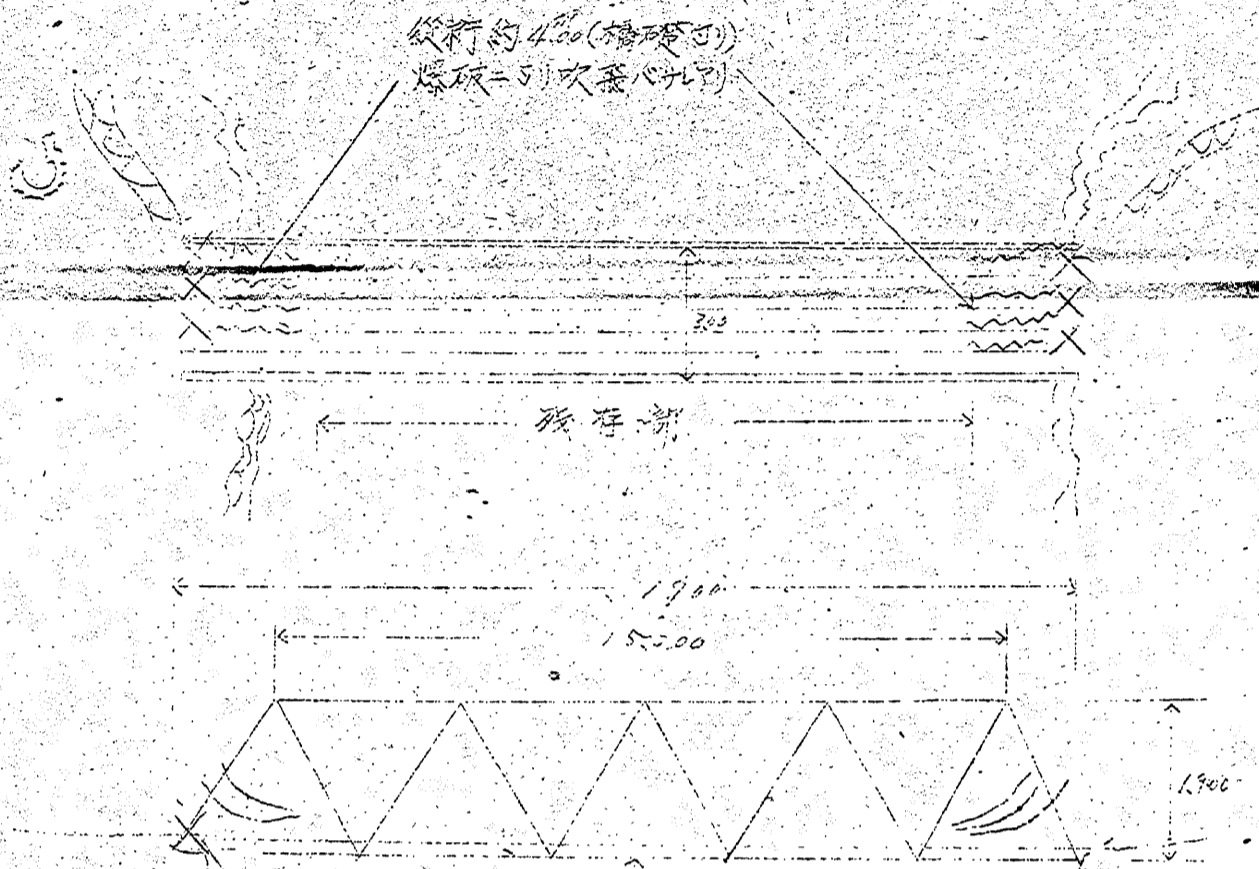
1751

三ツツノ川四ノ間破壊橋梁
 偵察要圖
 昭和十七年十月十七日



No. 1
 No. 2 } 橋梁破壊の細部が示されている
 No. 3 }

No. 1 橋梁破壊要圖



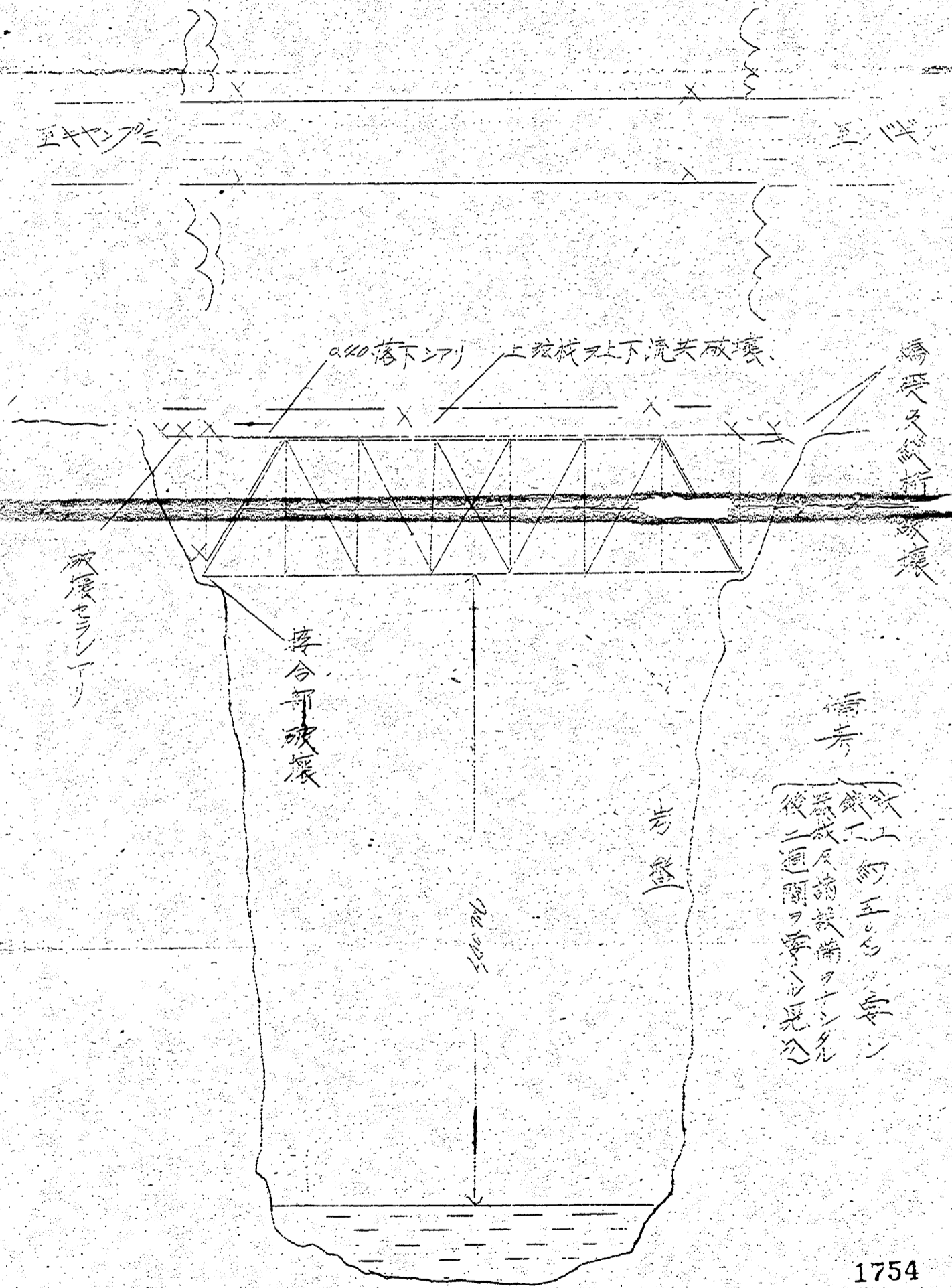
橋梁一部破壊
上表板下材ノ
接合部ハ全然破壊
ナレアリ

岩盤

鉄
150x150x15=5000
250x90x9=5000
75x50x9=5000
鉄 9x250=2000
三箇所分

備考
鉄 三
及鉄工器具整備後
約一週間ノ見込

No. 3 橋梁破壊要圖



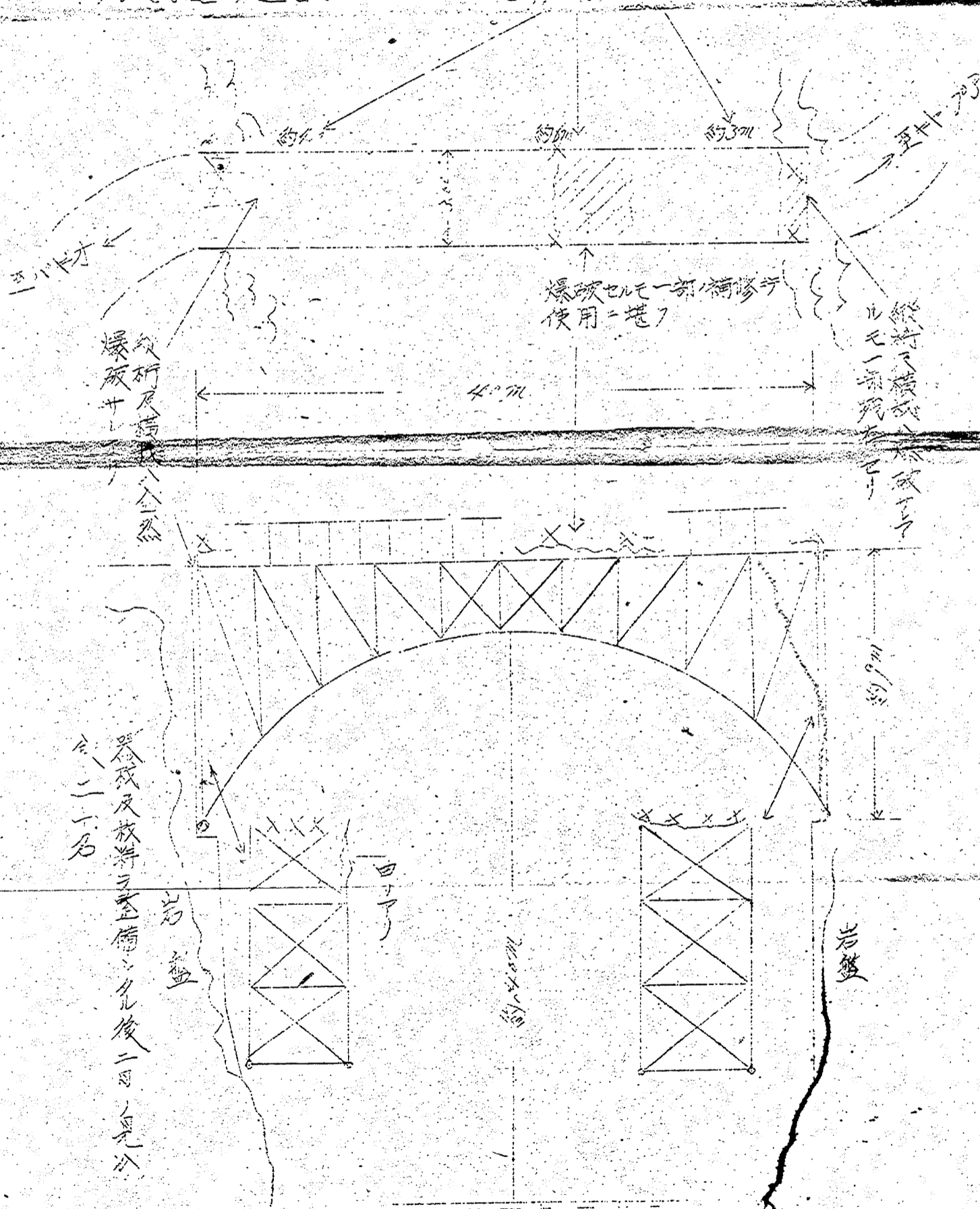
橋脚
 桁
 上
 下
 流
 共
 破
 壊
 後
 二
 週
 間
 閉
 鎖
 せ
 ら
 れ
 た

No.2 橋梁破壊要圖

備考

No.2 橋梁焼却一部はレ
アルモ未遂は通過可能

焼却箇所(橋板及筋板)



1755

十月十八日

晴

行跡一橋梁補修準備及交通警備ニ関シ八時夏六夜

命甲第ニハ六號ヲ下達ス

二九時如藤見習士官ハ第四小隊鳩谷兵長以下九名ヲ

指揮シ自軌偵車一車両ニヨリ「コンセプション」附

近ニ檢問所ヲ設置シ兵匪住民ヲ逃避防止スルヲ

メ同地ニ向ヒ出發ス

三九時ヨリ「シザリ」不_レ住民ニ對シ通匪防止及治安警

備ヲ獲得ノ目的ヲ以テ現場及警察員と會シ下ニ

住民章ニ部隊印ヲ捺ス、本日七名ニ達ス

四九時十分頃夕_ニ連傷入院患者ハ輸送ニ任シタル

山崎伍長ハタルニ至リ患者ヲ入院セシメ途

中異狀ナク歸隊ス

1756

五 九時木村見習士官ハ第四小隊、器械小隊、一部並ニ
地方民ヲ指揮シ哨舎並ニ掩體ノ構築ヲ行ヒ半
五時終了ス。又「ワザリ」部隊宿營地ハ南方
ノ高地ニ圍マレ警戒上注意ヲ要スル地形ナルヲ
以テ東北台山上ニ監視哨ヲ設ケ直接警戒ニ任
シムルコトトス

六 十四時岡田中尉ハ十一號道破壊状況ヲ六團司令
部ニ報告シ且之カ復舊ニ関シ兵團司令部及
軍政監部北部支隊ニ連絡ノタメ「バダオ」ニ
出張ス

七 同時大元准尉ハ自動車用燃料並ニ橋梁補修用器
材補給ノタメ「バダオ」兵團司令部ニ向ヒ自動車
二輛ヲ以テ出發ス

溪邊書長(人事其他事務連絡ノタメ)林軍營(切符)

事務連絡多クハ之ニ便乗シ「バヤオ」兵團司令部

ニ出表ス

八時時藤村中尉ハ兵團司令部參謀部吉谷中尉
及山田中尉ニ對シ部隊集結橋梁復舊ノ結果
及敵襲自動車攻撃等ニ関シ概要ヲ電話ヲ
以テ報告ヲナス

九時時部隊長ハ電話ニヨリ「バヤオ」兵團司令部
渡參謀ニ對シ橋梁復舊ニ関シ詳細ノ報告及連
絡ヲナス

十六時二十五分軍政監部「バヤオ」支部ヨリ電話ヲ以テ
「バヤオ」三「バヤオ」四間橋梁ノ復舊ハ軍政部ニ於テ
實施スルニ就キ作業ノ進捗ヲ類ム大凡二週間ノ
見込ナリトノ連絡アリ

十六時「バヤオ」兵團司令部ヨリ歩兵第一聯隊第二大隊森本

見習士官以下九名ハ命令ニヨリ本日檢問所ヲ撤收
シヨバオニ向ヒ出發ス

三十四時橋梁補修ニ関シ兵團司令部參謀ヨリ工兵隊
長ニ宛テタル電報ヲ受ク

三十五時セアジヨニニ位置シアル加藤見習士官ハ移動檢問
ニ重点ヲオケ八時及十五時部隊本部ニ連絡兵ヲ至
ラシメ目的達成ニ遺憾ナカラシム

經理部ハ時松本經理部見習士官ハ糧秣受領及潤保品購入
ノタメ自動債車四輛ヲ以テマニラコニスエレヤトニ向ヒ
出發ス

衛生主任松井衛生軍曹ハ昨日收容シタル入院患者ノ護送タ
部隊入院患者状況調査ノタメ右ニ使來之兵士トシテ
ルオントニ出發ス

命令

夏六作命 甲第三六六號

堀地部隊命令

四月十八日 時
ワザリオレ

一、コバシゲント州ニ於ケル兵匪ハ蠢動俄ニ沿溪トナ
リ逆日十二號道ノ交通ヲ妨害シ其ノ渡設ヲ破壊
シツルアリ

二、部隊ハ主力ヲ以テ十二號道ノ復舊ヲ圖ルタメ之ヲ準
備ヲ行フト共ニ一部ヲ以テ交通ノ警備ニ任セト

三、関河中尉ハ本十八日「バダオ」ニ至リ十二號道鉄橋破
壊ノ状況ヲ報告シ之カ復舊ニ關シ兵二司司令部

ニニ軍政監部「バダオ」支隊ニ連絡スベレ

四、大老准尉ハ自動偵察車三輛ヲ以テ「バダオ」大團司令
部ニ至リ燃料及器械ノ補給ヲナスベレ

五、水藤親衛士官ハ本十八日「時」北發、第四小隊一分隊ヲ

1760

以テ三虎道ヨシセアソシニ至リ同地ニ檢問所ヲ

設置シ兵匪及住民ノ逃避ヲ防止スハシ

自動偵察車一輛ヲ付ス

六 第四小隊長ハ其一分隊ヲ本朝八時カ藤見惣士官

指揮ニ付ラシムベシ

七 本村見惣士官ノ部隊ノ残部ヲ指揮シ步兵隊ト連

繫テ密ニシ宿營地附近ノ警戒ニ任スベシ

八 器械小隊長ハ本十八日ハ時カ藤見惣士官ニ自動偵察

一輛ヲ十三時カ元在村ニ自動偵察車二輛ヲ屬シ

ムベシ

尚本朝將校宿舎ヨシ監視機關ノ電線ヲ架設スルハ

シ

九 本朝現在地ニアリ

第四小隊長 堀地少佐

命令受領青々集々口達筆記セム

塚地部隊司令部

十月十八日

陸軍曹長

渡邊久夫

人事其他事務連絡ノタメニ洞三日ノ豫定ヲ以テ

才兵團司令部ニ出張ヲ命ス

陸軍曹長

林 九一

功績事務連絡ノタメニ洞三日ノ豫定ヲ以テ

才兵團司令部及洞訓練隊ニ出張ヲ命ス

承也

報

發信 十月十八日十四時四十分

受信 十月十七日十四時五分

第六旅團參謀

工兵隊長宛

才兵團司令部及洞訓練隊ニ出張ヲ命ス

1762

宿務現員

(約十五下ノヲ浦シ得ル如クセラレ度
尚其他ノ橋梁モ右ニ依リ速ニ補修セラレ度

區分派遣入院形表	本部	現員摘要	宿務	警	印	
本部	三五	六	三五	ロザリオ		
第一隊		二		渡邊部隊		
第二隊		二		白邊部隊		
第三隊				井上部隊		
第四隊	三一	二	五四	ロザリオ		
器械隊	一五	九	一一	三三六	ワザリオ	
備考一入院	陸軍軍曹	岡村繁幸	同	兵長	梶原雄	
	同	上等兵	原田正明	同	一等兵	丹下義雄
	同	一等兵	上森秀夫	同	一等兵	中條種彦
	同	一等兵	吉水定雄	以上		
	三配属	戸代小無線一分隊	大下兵長	以下四名		

十月十九日
月曜晴大

行動

八時木村見習士官八前目二列續々地方民ヲ使役
シ宿營地附近ノ排水設備作業ヲシテ十時概ネ
終了ス

尚一歩合同炊事ヲサスタメ水道ニ近ク炊事場ノ建

築ニ着手ス

二八時中尉藤村中尉ハハヤオ兵團司令部ニ出張シ
アル内田中尉宛速ニ兵團及軍政部トノ打合テノ
結果ヲ報告スル如ク電話ヲ以テ連絡ス

三八時及十五時「コンセブ」ヨリ檢問所ヨリ運來兵來
リ状況ヲ報告ス 別ニ異状ナシ

カ薩見習士官八年前同地北方ノ檢索ヲ行ヒタルニ
住民ニ異状ナク兵匪ヲ見タルコト一ト稱シアリ

午後、タモルテ、二至リタルニ、同地ニ、和田隊九名
ヨリ連絡ヲナシ、吳坂ナク歸レ

四十四時、兵團司令、新古谷中尉ヨリ、軍政部ニ、予百送
ニ、大凡、第三橋梁迄ノ通過設備ヲ了スル見込ナル
モ、戦車通過ノタメニ、尚相當ノ百發ヲ要スベト
堀井五、大、小隊、來ルヤトノ電話連絡、誤ル、依テ、藤村
中尉ハ、堀井小隊、未着ニシテ、兵カ、少ク、作業ノカ
ニ、重照ヲオカシ、檢問所ノ方ヲ考屬サレ、度々、旨、旨
答ス

尚、岡田中尉ト電話ヲナシ、大凡、工兵隊ハ、予百送
リ、作業スル如ク準備アリ、度々旨旨承知ス

五十六時、兵團司令、新古谷中尉ヨリ、工兵隊長ハ、速カニ、先況報
告ノタメ、出頭サレ、度旨ノ電報ニ、接ス、依テ、明早
朝、七時、發スルコトトシ、予百送、夏六、作命、甲、第三、八、三、電

12

61

78

ヲ下達シ準備ヒシム

命令 夏夜夜命用第... 二號

掘地部隊命令

十月十九日午後

一 予ハ朔半日七時三十分出發状況報告ノタムバヤ木

兵團司令部ニ飛入

二 兎五軍醫中尉ハ予ニ隨行スベシ

三 木村見習士官ハ予ノ七張團其ノ警戒ヲ担任スベシ

シハ警戒兵ノ差出ニ関シテハ直接第四小隊長

及器械小隊長ト連絡スベシ

本部石田上軍兵及輕機一ヲ其ノ指揮ニ入ラシム

四 第四小隊長及器械小隊長ハ「ワザリオ」宿營地警戒

要員ヲ保持シ協定ノ上警戒兵計約十名ヲ木

村見習士官ノ指揮ニ入ラシムベシ

1766

五 石田上等兵ハ輕燧一ヲ以テ木村見習士官ノ指揮
ヲ受クベシ

六 器械小隊長ハ羽子口七所ニ下分出發シ得ル如ク自
動偵察二輛ヲ準備シ木村見習士官ノ指揮ヲ
受テシムベシ

七 予ハ現在地ニアリ

部隊長 堀地少佐
下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

堀地部隊日日命令
十月十九日

陸軍上等兵 金崎 嵩

陸軍兵長ヲ命ス (十月十三日附)

河下士官 陸軍曹長 村竹 順 操

陸軍少校 陸軍中尉 小早川 利夫

城守

本週最務ノ命
陸軍三等兵
山城多守
入院ノ命

區分 派遣 入院 出張 派務 理員 摘要 商 營 地

本部 二 四 六 三〇

第一隊 二 渡邊部隊

第二隊 二 田邊部隊

第三隊 井子部隊

第四隊 〇ザリ方

第五隊 〇ザリ方

備考 一、入院 陸軍上等兵 山城多守
二、死亡 陸軍長官 金崎 高

79

1768

1769

十月二十日

火曜 藤原

行動

日軍 藤原 五分
日軍 藤原 五分

一七時三十分部隊長ハ狀況報告ノタメ兵團司令部ニ出
 張ス、兜玉軍醫中尉之ニ隨行シ、木村見習士官ハ
 巻坂小隊 藤原 伍長以下十名ヲ指揮シ、其ノ警備地ニ在
 シ、自働偵車ニ頼リ以テ出陣ス

一八時村行曹長ハ地方民ヲ使役シ前河ニ引續ク、宿
 營地附近道路補修並ニ拒馬ノ構築設置ヲナシ

十六時終了ス

一十三時加藤見習士官以下三名ハ「コンセカ」ニ檢問
 狀況報告ノタメ「ワカリカ」ニ至リ十四時歸隊ス

右ハ本日三號道北方ノ「カンラ」及「タシグ」ラダケ
 面ヲ巡察於閉セシニ何等異状ナシ

一十時兵團司令部出、中尉ヨリ橋梁補修ノ打合

1770

概要ヲ電話ヲ以テ連絡シ来ル之ニヨレハ軍政部
 ハ二十一日迄ニ大凡ハバヤオ方面ヨリ破壊セシメ
 タル第一第二橋梁迄ノ自動車通過設備ヲ終
 リ爾後戦車ノタメノ設備ヲナスヲ以テ工兵隊ハ
 「ヤベンガ」ニ面ヨリ着手サレ夏守ヲ傳フ
 工配属ノ掘井小隊未ダ到着ス依テ十二時三十分サ
 ンフアビアン「警備隊ヲ介シ速カニ至ルベキ旨ヲ
 「ダグバ」ニ同小隊宛打電ス
 六「バヤオ」兵團司令部ニ軍政部ニ作業打合ノタ
 メ出張中ノ岡田中尉ハ十三時歸隊ス
 七燃料補給ノタメ古ニ同行「バヤオ」兵團司令部ニ
 七向メタル大元准尉ハ「ダモル」ニ於テ同燃料
 ヲ受領スベシト「兵團司令部」中尉ニ指
 示シヨリ同地ニ至リタルガ工兵隊燃料未着ニ付愈

13693

部隊宛ノ分ヲ差當リニテ據差務受領シテ三時歸
 隊ス
 八事務連絡ノタメ兵團司令部ニテ派シタル渡邊
 長尺林軍曹ハ夫々用務ヲ了シ右ニ同行歸還
 ス
 九洞町中村ノ兵團司令部ハ軍政監部トテ行合ニ在
 々明平一日ヨリ「ヤマシ」附近ノ破壊鉄橋補修
 ニ関シ二十三日夏六夜命甲第ニ八七號其ノ一ヲ下
 達ス
 十「マニラ」ガ「エレ」ト出衆中ノ松本經理部見
 習士官(糧秣受領、酒原西購入)及松井衛生軍曹(八
 院患者護送及調査)ハ夫々用務ヲ了シ十九時三十
 分異狀ナク歸隊ス
 出永田伍長以下三名ハ「タル」ラツク領物集積所勤

1772

務ヲ冠野佐長ニ申送り十九時三十分歸隊ス

命令

夏六休命中第二六之號其ノ一

掘地部隊命令

廿月二十日三時
ロザリリカ

一 部隊ハ軍政監部七部及宋支部ト協力シ十二號
迄ノ破壊橋梁ヲメキメシテ三方面ヨリ補修シ速
カニ其ノ復舊ヲ期セシトス

二 池内見習士官ハ第四小隊ノ士カヲ以テ軍政監
部七部及宋支部ト連繫ヲ密ニシテメキメシ
附近ノ破壊橋梁ヲ戰車(十五噸)ヲ通過ニ支
障ナカシムル如ク速カニ補修スベシ
之カ爲メ警備ヲ嚴ニシテ作業点附近ニ位置セシ
業ノ進捗ヲ觀ルベシ
三 自動貨車二輛ヲ屬ス

13693

器機之ニ資機ノ整備及特殊作業ニ関シテハ元
 准尉(谷)機ノ部ヲ含ムヲシテ協カセシム
 大元准尉ハ前項破壊橋梁補修ノタメ所要ノ器機
 及資機ノ整備ニ任スルト共ニ第四小隊ノ特殊作
 業ニ関シテハ極力之ニ協カスベシ

器機小隊永田伍長以下五名ヲ其ノ指揮ニ入シシム
 村竹曹長ハ前日早朝自働偵車ニ附リ池内
 見習士官ノ指揮ニ入シシム外永田伍長以下五
 名ヲ以テ大元准尉ノ指揮ヲ受ケシムベシ

又前日(1)タルラソクニ残置シタル特殊補修器
 機ヲ速カニ現在地ニ輸送シテ大元准尉ニ交付
 スルト共ニ前隊龍崎燃料ノ残部ヲ「カモル」テ
 停車場ニ於テ受領シ「ワザリオ」ニ輸送スベシ

五 経理官ハ第四小隊ノ作業據点推進ニ伴フ給

13693

84

第四小隊三八即刻「ヤ」ノ警備隊ヲ介シ電話ヲ以テ右命令ヲ傳達セシム

八十三時木村見留士官ハ「タ」ニテ檢問所設置ニ檢問、警備ノ要領指導ノタメ自動車二輛ヲ「コ」ンセカミヨシ檢問所鳩谷分隊ヲ指揮シ「モ」ルテ

又ニ至ル

九十三時半分兵團司令部山崎大尉ヨリ「シ」ク「レ」

「シ」道ノ復舊ハ急ヲ要ス兵一隊ヲ附スル如ク準備シ「ア」トノ電話「リ」タルヲ以テ藤村中尉ハ

「キ」ノ「カ」三警備隊ヲ經テ池内小隊ノ出發ヲ督促ス十六時池内見留士官ハ先ニ一分隊ヲ以テ先行シ兵團司令部ニ至リ連絡シ「カ」所ヨリ電話「レ」依「リ」只「レ」

兵團司令部ニ至リ連絡シ「カ」後發ノ辻助分隊ハ辻「カ」

工器枚燧臺及糧秣ヲ携行シ速カニ追及スル様傳

1776

兵器

ヘラレ度シトノ連絡ヲナス、依テ同作業ニ準備
 中ノ過働分隊ニ其ノ旨ヲ電話ス
 出十七時五十五分中地區隊配属ノ第一小隊惣半中尉
 以下一名ハ事務連絡ノタメ本部ニ来ル
 去、木村見習士官ハ「タモルテス」檢問所設置及警備前
 導ヲオシテ二十時異状ナク歸隊ス
 去、二十時池内見習士官ヨリ電話報告ヨリ、第四小隊ハ
 「ババオ」河ノトック道破壊檢査点ニ至ルニ同箇
 所ハ既ニ道路隊ノ地ニ入りヨリ通過可能トナリ下リ
 依テ、以今刻返シ兵團司令部ニテリ、兵團司令部
 于於テハ、前夜ノ業務ヲ續行スルニ命ジテ上リ下リ
 去、二十時十分ニ報告ヲ基ニ、夏六夜命甲第九一號
 フ下達シ、池内小隊ニテ續行前任務ヲ續行セ、大
 去、二十時廿分ニ、破損兵器修理ノタメ、ハ、兵團司令部

令部三出飛シ十八時歸隊ス

經理共川端伍長以下三名ハ七時出發「バダ」ニ至リ修理被

服ヲ兵團司令部移動修理班ニ依拠シ事務用消

耗品ノ受領ヲナシ十八時歸隊ス

衛 衛生新藤衛生軍曹ハ七時出發「バダ」ニ至リ患者ノ

入院ヲ處理シ藥物ノ受領ヲナシ十八時歸

命令

夏六作命甲第ニ九〇號

坂北部隊命令

十月二十九日十二時
「バダ」ガリヨシ

一 七號道「バダ」北方二十料「バダ」十料間ノ橋梁ニ箇

所、兵匪ノ夕ニ爆破セラレ交通不能ノ状態ナリ

二 部隊ハ一隊ヲ以テ速カニ前項橋梁ノ補修ヲ實施

スルト共ニ檢問所ノ變更ヲナサントス

三 池内見習士官ハ其ノ三隊ヲ以テ即刻出發ト號

- 道、北方向に下料、下料間、於此破壊橋梁ノ
補修ヲ緊急實施シ、自動車通過ニ支障ナカラシ
ムベシ、之カ爲、現行作業ヲ一時中止スルコトヲ
得、現作業設備ノ警備ハ宇野隊之ヲ任スル筈
四、嶋谷伍長ハコンセアノ檢問所ヲ撤シ、コ
ノガモルテスニ移動セン、兵隊及住民ノ逃避ヲ
防シ、ワザリオ、ガモルテス間ノ警備ニ任スベシ
五、水村見習士官ハ、ガモルテス檢問所ノ設置及警備
檢問ノ實施ニ關シ之カ指導ニ任スベシ
六、自動偵察車一輛ヲ付ス
七、器材小隊長ハ自動偵察車一輛ヲ直下ニ水村見習士
官ノ指揮ニハクシムベシ
七、細部ニ關シテハ別ニ示ス
八、予ハ現在地ニ在リ

有地

下達法

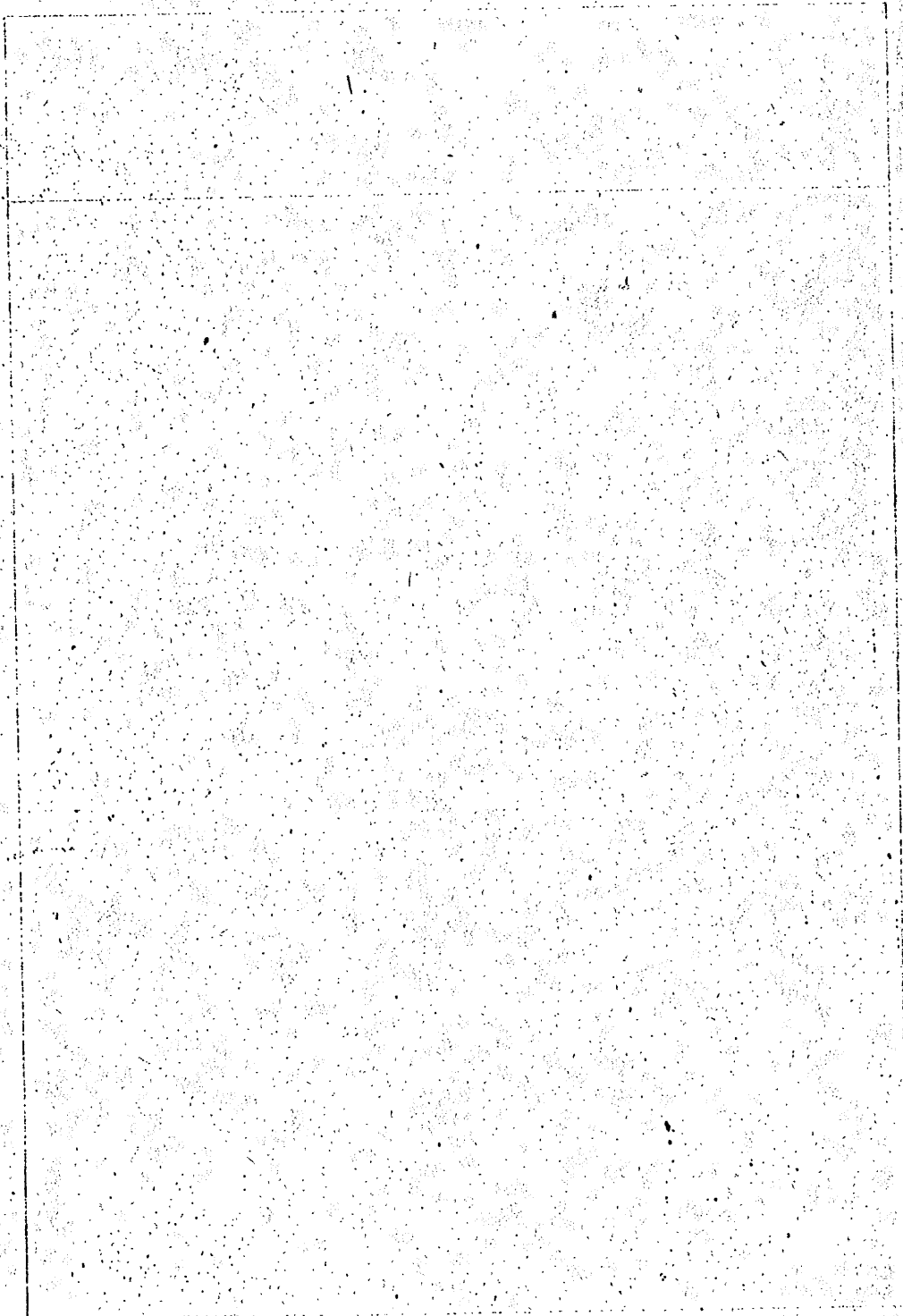
命令受領者ヲ業メテ達筆記セシメ
池内見習士官ニハ電第ヲ以テ傳達ス

87

區分派遣	入院	出飛	水部	現員	擲要術	登	地
水部	一	三	一	一	通譯一	口	サリヲ
第一隊				二	一	口	渡邊部隊
第二隊							田邊部隊
第三隊							井手部隊
第四隊							
第五隊							
第六隊							
第七隊							
第八隊							
第九隊							
第十隊							

備考 一入院 陸軍少佐佐長 水司忠博
 同 一京安 關平 實
 六退院 陸軍上等兵 足水次助

1780



1781

部隊長 堀地 少佐

下達法 命令受領者ヲ集メテ口達筆記セシムル後池内見

習士官ニハ電話ヲ以テ傳達ス

夏六作命甲第一九一號

堀地部隊命令

十月二十日二十時十分
ワコザリオ

「バギオ」ホントツノ道平一軒附近ノ破壊橋梁ハ偵察

結果附近道路隊及地方民ニ依リ補修セラル自動率

通過ニ支障ナキ現況ナリ

ニ部隊ハ引續キ「キャンブ」附近ニ於ケル橋梁ノ恒久補修

作業ヲ續行セントス

ニ池内小隊ハ原作業位置ニ歸還シ引續キ破壊鐵橋

恒久補修作業ヲ實施スベシ

作業實施ニ伴フ交通遮断ニ関シテハ豫メ部隊本部ニ

13693

給スベシ

四、水村見習士官ハ嶮谷分隊及在「ロザリオ」兵方ノ餘
裕ヲ以テ「ダモルテス」サントト「ア」附近ノ情報ヲ收集
シ「カ」檢索ヲ實施スベシ

自動貨車一輛ヲ付ス

五、礮材小隊長ハ宿營設備ノ補備ニ任スル外前任務ヲ續
行スベシ

尙水村見習士官ニ自動貨車一輛ヲ屬セシムベシ

但共ノ時機ハ同見習士官ト連絡スルモノトス

六、細部ニ関シテハ別ニ指示ス

七、予ハ現在地ニ在リ

部隊長 堀地 少佐

部隊死ノ分ヨ差當以テ權差務受領シ十三時島

八事務連絡ノタメ兵團司令部ニ出飛シタル渡邊曹

長及林軍曹ハ夫々用務ヲ了シ右ニ同行歸還

ス

九洞四中村ノ兵團司令部及軍政監部トテ行合ニ基

テ明日一月ヨリマニンプ三附近ノ破壊鉄橋補修

ニ関シ二十三時夏六休命ヲ第ニ八七號共ニ下

達ス

マニラヨリカンラエトシトニ出飛申ノ松本經理部見

習士官(程秋受領)酒保(西崎入)及松井衛生軍曹(八

院)連有護送及副査(八夫)及用務ヲ了シ十九時三十分

分便米ノ連絡ス

分便米ノ連絡ス

分便米ノ連絡ス

1784
1785

部隊死ノ分ニ差當リテ權差督受領シ十三時迄
際又

八年勢連絡ノタメ兵團司令部ニ差添一タル渡邊
長及秋軍曹ハ大々用務ヲ行シ右ニ同行請返
又

九洞中尉、兵團司令部及軍政監用トテ司令ニ差
又期至一月ヨリ、マニカ三附近ノ以塚決橋補修
ニ關シ二十三日有六休命軍第ニハニ號六ノ一ヲ下
達又

カニノ洞ニテ五レ下ニ出發中ノ松本陸軍部見
習士官(釋林)受領、着兵長職入、及松井、崎、佐、軍、部、入
院、送、行、護、送、及、謝、意、ハ、大、々、用、務、ヲ、行、シ、十、三、時、三、十、分、
分、異、狀、ノ、降、隊、又

松本陸軍部見習士官(釋林)受領、着兵長職入、及松井、崎、佐、軍、部、入
院、送、行、護、送、及、謝、意、ハ、大、々、用、務、ヲ、行、シ、十、三、時、三、十、分、
分、異、狀、ノ、降、隊、又

1784
1785

務司 冠野 伍長ニ申送り十九時三十分歸隊ス

命令 夏六夜命ヲ第ニハ七號其ノ一

堀越部隊命令

十月二十日二十時
ワザリオリ

一 部隊ノ軍政監部北郡志宋支部ト協力シテ先
進ノ破壊橋梁ヲマヤンカニテ百ウリ補修ニ速
カニ其ノ復舊ヲ期セントス

二 池内見島志宋ハ隊四小隊ノ士力ヲ以テ軍政監
部北郡志宋支部ト連繫ヲ密ニシテマヤンカニ
附近ノ破壊橋梁ヲ戦車(十五噸)ノ通過ニ支
障ナクシテミル如ク速力ニ補修ハベシ
之カ爲メ警言戒ヲ嚴ニシテ休業点附近ニ位置シ作
業ノ進捗ヲ圖ルベシ
自働貨車ニ輛ヲ屬ス

十月二十七日

火曜前夜の

日正 六時五分
百文 六時五分

行動

六七時十分部隊長ハ状況報告ノ後兵團司令ヲ出
張ス。炮三單醫中尉之ニ隨行シ木村見習士官ハ
悉數小隊。藤本伍長以下十名ヲ指揮シ其ノ隊舎在
シ自働價車ニ鞠ヲ以テ也突ス

六時村行警長ハ地方民ヲ使役シ前日ニ引續ク
塔地附近道路補修之ニ拒馬ノ構築設置ヲ行
十六時終了ス

六十三時加藤見習士官以下三名ハコトセカシロノハ門
然先發告ノソメニサリカニ至リ十四時部隊ハ
右ハ本日三號道北方ノカシラブレ及メシガラガカ

面多迷察檢問セシニ何等異狀ナシ
四時兵團司令部出令中尉ヨリ橋梁補修ノ打

概 要 電 報 通 信 網 絡 系 列 之 ニ コ レ ハ 軍 隊 部
 八 多 一 箇 迄 之 大 凡 一 々 方 面 面 面 破 壊 セ ラ レ
 タ ル 第 一 第 二 橋 梁 迄 ノ 自 動 車 通 過 設 備 ヲ 終
 リ 爾 後 減 速 ノ タ ヲ 設 備 ヲ 行 ス ヲ 以 テ 工 兵 隊 ハ
 一 々 ヤ ン ン ン 面 面 面 著 手 廿 以 展 行 ヲ 傳 フ
 五 配 屬 ノ 掘 井 小 隊 未 ダ 到 達 セ 依 テ 廿 三 分 間
 ン フ ア ビ ア ン 警 備 隊 ヲ 介 シ 速 カ ニ 至 レ ン ン ン
 六 一 々 々 々 同 小 隊 宛 打 電 ス
 七 一 々 々 兵 團 司 令 部 迄 二 軍 政 部 二 依 業 打 合 ノ
 ヲ 出 衆 中 ノ 國 田 中 尉 ハ 十 三 時 歸 隊 ス
 八 燃 料 補 給 ノ タ ヲ 古 二 同 行 一 々 兵 團 司 令 部 二
 七 七 向 ヲ タ ル 大 元 澤 尉 ハ 一 々 々 二 於 テ 同 燃 料
 ヲ 受 領 ス ベ シ 一 一 兵 團 司 令 部 中 八 中 尉 八 傳
 示 二 コ リ 同 地 二 至 リ タ ル カ 工 兵 隊 燃 料 夫 着 二 同 七

器機之ニ資材ノ整備及特殊作業ニ関シテハ大元
准尉(器機ノ隊ノ一部ヲ多シ)ヲシテ協力セシム
大元准尉ハ前項破壊橋梁補修ノタメ所要ノ器機

及資材ノ整備ニ任スルト共ニ第四小隊ノ特殊作業
ニ関シテハ極力之ニ協力スベシ

器機小隊ノ西任長以下五名ヲ其ノ指揮ニ入ラシム
五 村竹曹長ハ四月二十一日早朝自働偵車ニ乗リ池内
見習士官ノ指揮ニ入ラシムル外、水田任長以下五

名ヲ以テ大元准尉ノ指揮ヲ受ケシムベシ
又四月二十一日タルラックヲ設置シテ特殊補修器

機ヲ速カニ現所在地ニ輸送シ、大元准尉ニ交付
スルト共ニ前隊既備燃料ノ残部ヲ「ガモル」ヲ

停車場ニ於テ受領シ「ワザリ」ニ輸送スベシ
五 經理官ハ第四小隊ノ作業據点推進ニ伴フ給

1789

縮寫地

養三閣ノ處理スベシ

六 細部ニ関シテハ列ニ示ス

七 予ハ「バヤオ」ニ在リ「羽」ニ付「口」ガリ「オ」ニ歸ス

部隊長 堀地 佐

下達法 命令受領方ヲ撰メ口達筆記セム

區分 派遣入院此派 本前 現員 摘要 宿 營 地

第一隊 二 四 五 三一 通譯名 フサリオ

第二隊 二 二 渡邊部隊

第三隊 一 二 田邊部隊

第四隊 一 三 半平部隊

第五隊 二 三 五 三 フサリオ

第六隊 一 五 九 一 三 二 六 フサリオ

備考 一 退院 齊三小隊 遠藤 恒 (一等兵)

六 配属 齊三一分隊 大下 長 以下 略